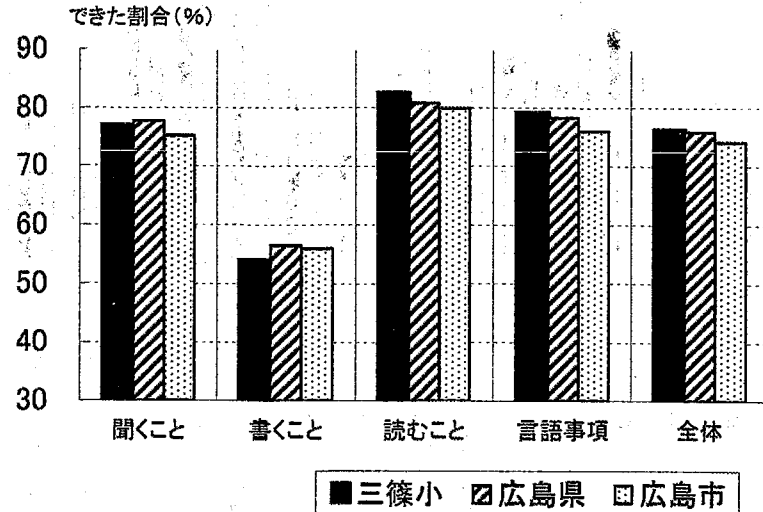


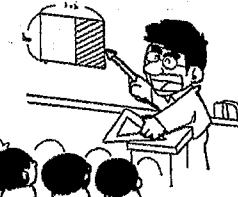
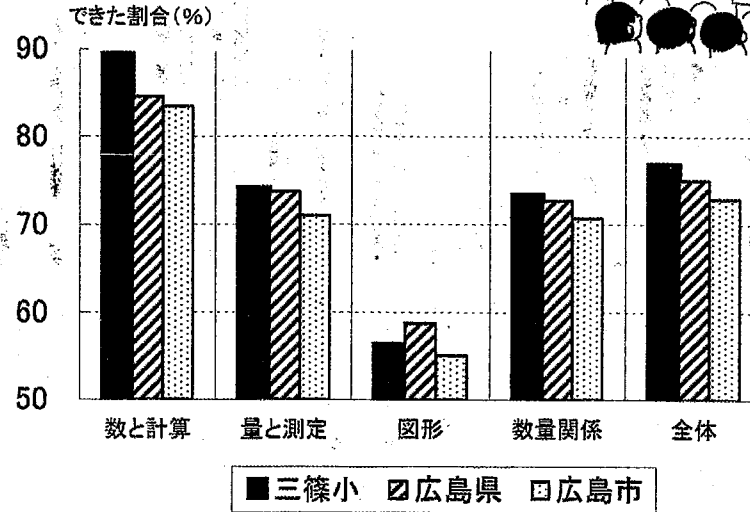
# 平成24年度 基礎・基本定着状況調査(5年生)結果



基礎・基本定着状況調査(国語)



基礎・基本定着状況調査(算数)



## 調査方法等

- 調査日時: 平成24年6月12日
- 調査対象学年: 第5学年
- 調査方法: テスト方式
- 調査教科: 国語・算数
- 出題範囲: 小学校1年生～4年生
- 分析・考察: 広島市立三篠小学校

## 国語の調査結果をふまえて

国語全体の通過率は広島県とほぼ同じでした。領域別に見てみますと「言語事項」については、漢字やローマ字を読むことや国語辞典の使い方に関する力は定着していますが、抽象的な言葉の意味や主述の関係を問う問題において通過率が低かったです。引き続き、読書の機会や文法について学習する機会を増やし、言語についての理解を深めていきたいと思えます。「読むこと」については、登場人物の関係を把握したり、適切な語を選択したりする力は定着してきており、文章の内容を理解する力は育ってきています。しかし、場面の移り変わりや情景を想像する問題で通過率が低かったです。これからも引き続き、言葉を手がかりに心情や情景を読み取る学習を丁寧に行い、物語文の読み方を身につけることが出来るようにしていきます。「書くこと」については、推敲したり、理由を挙げて記述したりすることは、概ね定着していますが、葉書の書き方についての問題では、通過率がとても低かったです。文章の構成に留意し、読み手に伝わる文章が書けるよう繰り返し指導するとともに、手紙や葉書の書き方についても定着するよう指導を重ねていきます。「聞くこと」では、おおむね話の要点を落とさずに聞くことが出来ています。話の中心を意識した聞き方やメモの取り方などの指導を充実させていくことで、さらに聞く力を伸ばしていきます。

## 算数の調査結果をふまえて

4つの領域のうち、目標とされる正答率7割を超えた領域が3つありました。いずれも県平均、市平均を上回っています。「量と測定」の領域では、思考力を高める学習活動や具体的な操作活動を取り入れる等指導方法を工夫・改善することにより、学習内容が定着するようになっていきます。「図形」の学習では、図形の定義(ひし形)や性質について問う問題の通過率が低かったです。授業では具体的な活動を取り入れながら、図形の特徴や性質を理解させる展開になるよう授業改善を行っていきます。正答率の低い問題を見てみると、問題文から条件を読み取り、その条件に適合するように解答することができていないものが多くありました。算数においても、問題文をよく読み、条件や必要な情報を取捨選択する力は、とても大切です。これからも算数科における読解力をつける指導を行っていきたく考えています。

	聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項	全体
三篠小	76.9	53.8	82.3	79.0	76.1
広島県	77.7	56.4	80.7	78.3	75.8
広島市	75.1	55.9	79.9	75.9	74.1

	数と計算	量と測定	図形	数量関係	全体
三篠小	89.4	74.1	56.3	73.3	76.8
広島県	84.6	73.7	58.7	72.7	75.0
広島市	83.5	71.0	55.0	70.7	72.9

## 調査結果について

本年度の基礎基本定着状況調査を本校と広島県と広島市との比較をして、グラフと表にまとめました。教科別、領域別の定着傾向を見ると、国語では「書くこと」の領域において、通過率の低い学習内容がありましたが、おおむね国語の学力が定着しています。中でも「読むこと」「言語事項」については、県平均よりも高く、読み取る力や言語力がついてきていることが分かります。今後も引き続き言語についての学習を取り入れながら、「聞く」「読む」「書く」力がバランスよくつくよう指導の工夫をしていきます。

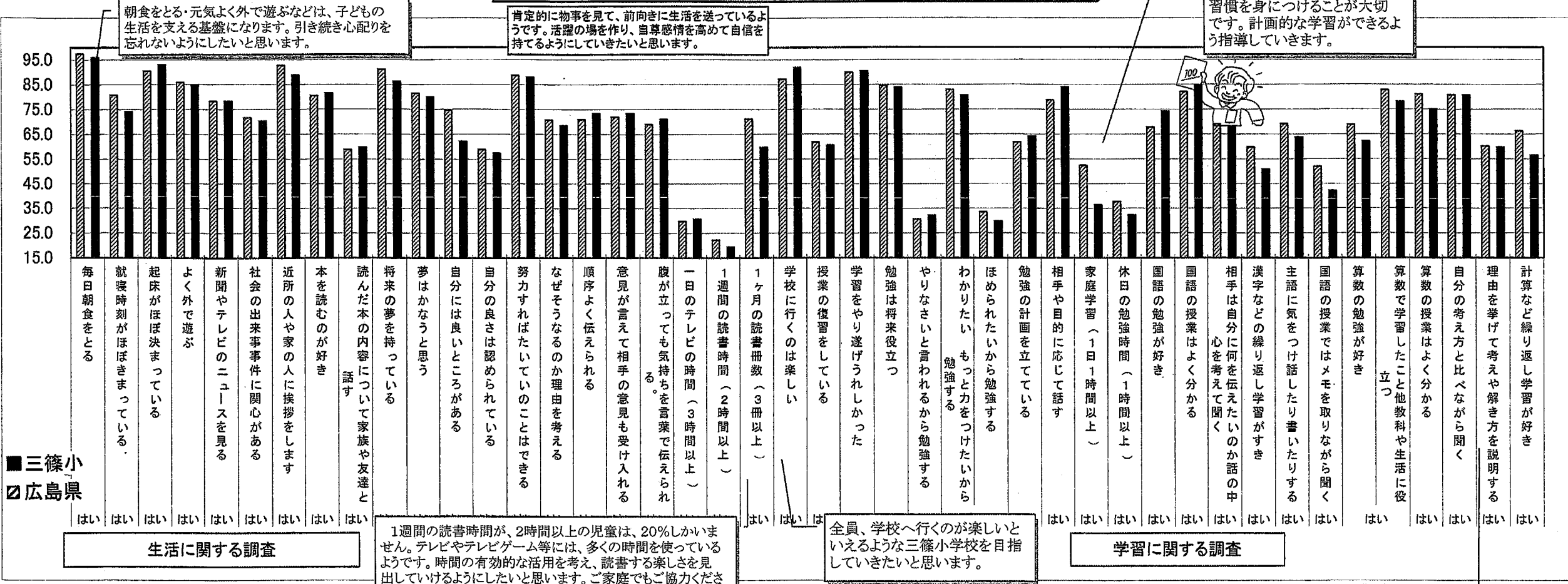
算数は「図形」の領域が他と比べて通過率が低いのですが、残りの三領域は通過率が70%を超え、算数の学力はおおむね定着しています。特に、「数と計算」領域における整数と小数の計算や「数量関係」領域における資料の読み取りなどは、80%から100%の高い通過率で、学習内容が定着していると言えます。しかし、「図形の定義」や「伴って変わる数量」の公式化は通過率が低く、学習内容によって定着状況に差があることが課題です。

## 基礎・基本の重要性と本校の取り組み

基礎・基本(基礎学力)は、全ての学習の土台となるものです。小学校で学習する内容は全てが基礎学力とも言えますが、とりわけ、読み・書き・計算はその中心となるものです。今回の調査で定着が不十分な領域がはっきりとしたことで、より効果的な指導法の改善に取り組むことができます。今後、全学年で反復練習の継続や授業改善などに取り組むとともに、学習内容の確実な定着がはかれるようなきめ細かで、効果的な指導方法の研究を進めていきたいと思えます。

全ての児童に「分かる喜び、できる喜び」が実感できるような指導をしていきたいと考えています。今後ともご理解とご協力の程、よろしくお願いたします。

# 生活と学習に関する意識・実態調査



朝食をとる・元気に外で遊ぶなどは、子どもの生活を支える基盤になります。引き続き心配りを忘れないようにしたいと思います。

肯定的に物事を見て、前向きに生活を送っているようです。活躍の場を作り、自尊感情を高めて自信を持てるようにしていきたいと思ひます。

毎日、1時間以上は学習する習慣を身につけることが大切です。計画的な学習ができるよう指導していきます。

■三篠小  
の広島県

生活に関する調査

学習に関する調査

1週間の読書時間が、2時間以上の児童は、20%しかいません。テレビやテレビゲーム等には、多くの時間を使っているようです。時間の有効的な活用を考え、読書する楽しさを見出してほしいと思います。ご家庭でもご協力ください

全員、学校へ行くのが楽しいといえるような三篠小学校を目指していきたいと思ひます。

話し方・伝え方は、相手とのコミュニケーションをとるために必要になります。日常の会話からも、話し方・伝え方に気を配って生活していくように心がけていきたいと思ひます。

## 生活と学習に関する意識・実態調査より

それぞれの項目に、子どもの実態がよく表れています。全体的に前向きで素直なさがうかがえますが、いくつか気になる点も見えてきます。

生活では、「朝食をとる」「よく外で遊ぶ」はよいのですが、中には起床・就寝時刻が遅い児童がいます。「早寝、朝ごはん」が学力や体力づくりに大変重要なことが指摘されています。早く寝て、しっかり食べることで気力が充実し集中力が高まります。テレビやゲームの時間をみても、1日に3時間以上みている児童が30%います。家庭での学習時間は、毎日の一定量が必要です。就寝起床時刻を含め、家庭での生活リズムの確立が大切です。

また、「自分にはよいところがある」「将来の夢を持っている」「夢はかなう」など夢をもち、前向きに努力していく児童が多く、自己肯定感が高いといえます。一方で、それを周りの人から認められていないと感じている児童が少なくありません。いろいろな場面をとらえ、その子の持っている良さやがんばりを認めていくことを大切にしていきたいと思ひます。あいさつについては、85%を超える児童が意識してあいさつするよう心がけているようですが、はっきり相手に伝わるあいさつができるようさらに指導を重ねていきたいと思ひます。ご家庭でもご協力をお願いします。

読書の状況をみると、1週間の読書時間が2時間以上の児童が、20%しかいないという結果でした。朝の時間を読書タイムと位置づけて取り組んでみましたが、まだ本を読む楽しさを十分には感じておらず、習慣化できていないようです。いろいろな本を紹介したり、読書する機会を増やしたりして、読書習慣の定着を図っていききたいと思ひます。

これらの生活に関わることは、学校と家庭とが連携して改善していくことが大切だと思ひます。保護者の皆さんと相談しながら改善の方策を考えていきたいと思ひます。

勉強をする動機が「ほめられたいから」「やりなさいと言われるから」が少なく、「将来役立つから」「わかりたい もっと力をつけたいから」が多くなっています。多くの児童が成長したいという気持ちを持って学習に臨んでいるのは、素晴らしいことだと思ひます。この気持ちを受け止め、達成感が味わえるよう努めていききたいと思ひます。

国語・算数の学習に関する調査項目では、「学習した内容を他の教科や生活の中で生かしたい」という思いをもっている児童や実際に「学習で習ったことを生活の中で利用している」児童が多かったのはとてもうれしいことでした。これからも、児童にとって楽しく分かる授業になるよう授業を工夫していくとともに、活用する力を育むためより発展的な課題に取り組ませるなど、児童のニーズに即した学習を展開していきたいと思ひます。



本年6月12日基礎基本定着状況調査が、5年生を対象に広島県の全ての学校で実施されました。

ご家庭でお子様にあてはめて、データをみられてはいかがでしょうか。学校ではこの結果をもとに学習環境・教師の指導などを見直すとともに、課題を克服できるような対策を講じてまいりたいと考えています。

調査結果に一喜一憂するのではなく、児童一人一人がよい方向へと向かう起点になればこの調査が意味あるものになると思ひます。

本調査をご覧になり、お持ちになった感想やご意見がありましたら是非、学校へお寄せいただければ幸いです。

三篠小学校校長 木村 正信